比較文化論　　齋藤正憲

授業概要

パンを焼く乾燥アジアとご飯を炊く湿潤アジアでは、自ずと生活様式が異なり、社会組織、ひいては家族の在り方まで違ってくる。かくして地域性を色濃く反映しつつ、成立した世界各地の伝統文化は、近代以降、グローバリゼーションの荒波に洗われて、劇的な変容を強いられている。それでもなお温存される「古層」があるとすれば、それこそがまさに「文化の本質」だ。でも、地域研究に頼ってばかりいては、そのような「古層」はなかなかみえてこない。比較文化論の観点から、乾燥と湿潤の「境界」にこそ目を向けるべきなのだ。

本講義では、主としてアジアの諸文化を検討の俎上に載せ、乾燥と湿潤がせめぎ合う「境界」に着目しつつ、アジア文化論について考究したい。結果、受講生の裡に確固たる「アジア観」が涵養されることを願う。

授業計画

第１回	導入①：ある研究者の履歴
第２回	導入②：アジアを俯瞰する眼
第３回	乾燥アジアの文化①：古代文明の特徴
第４回	乾燥アジアの文化②：イスラーム世界
第５回	隣人たち：韓国・台湾の文化
第６回	乾燥から湿潤へ①：黄河と長江
第７回	乾燥から湿潤へ②：インド文化入門
第８回	湿潤アジアの文化①：東南アジア大陸部
第９回	湿潤アジアの文化②：東南アジア島嶼部
第 10 回	境界のアジア：黄金のベンガル
第 11 回	境界のアジア：バングラデシュ学の提唱
第 12 回	辺境のアジア：赤道を跨ぎ、本質を思う
第 13 回	辺境のアジア：近くて遠いネパール
第 14 回	総括①：アジアについて語ろう
第 15 回	総括②：日本について語ろう
第 16 回	理解度の確認

到達目標

（１）アジア諸文化の歴史的・地理的概要を把握し、説明できる。
（２）アジアの諸文化について、比較文化論の観点から、大胆な考察ができる。
（３）構造的なアジア理解に根差した「アジア観」を構築する。

履修上の注意

（１）予備知識は必要ありませんが、主体的・積極的な授業参加を希望します。
（２）欠席・遅刻・早退については、理由（就職活動、教育実習など）を鑑み、これを認めることがあります。

予習復習

（１）予習の必要はありません。
（２）復習についてもとくに定めませんが、講義中に示した参考文献をできる限り参照してほしいと思います。

評価方法

理解度の確認 80%、平常点評価 20%（出席状況、講義中の発言など）

テキスト

（１）テキストは指定しません。関連資料については、適宜、配布します。
（２）以下に、参考図書として、講義担当者の著作を紹介します。

齋藤正憲『土器づくりからみた３つのアジア：エジプト・台湾・バングラデシュ』，創成社.
齋藤正憲『境界の発見：土器とアジアとほんの少しの妄想と』，近代文藝社.